



しべつ読書でつなぐ まちづくり事業報告書

「図書館・学校図書館と地域の連携協働による読書のまちづくり推進事業」
(文部科学省委託)

株式会社遊喜
しべつ読書でつなぐまちづくり協議会

2026.3.10

はじめに～事業趣旨説明に代えて

士別市は、読書活動が盛んなまちです。

人口減少が進む中であっても、市立図書館の貸出冊数はコロナ禍前の水準に戻りつつあります。また、ある市立小学校の児童アンケートでは、「本を読んだり、本で調べたりすることができていますか」という問いに対し、92.8%が肯定的に回答しました。この高い数値は、長年にわたり読書環境の整備を丁寧に積み重ねてこられた多くの関係者の尽力の賜物であると考えています。

昭和33年の開設以来、市立図書館は市民ボランティアと力を合わせ、利用しやすい図書館づくりを進めてきました。ブックスタート、移動図書館、読書普及事業、学校図書館への支援といった取組に加え、読み聞かせや紙芝居サークルなどのボランティア団体が、子どもたちに本の楽しさを伝え続けています。さらに、学校図書館には司書が派遣され、児童とともに魅力的な空間づくりが行われています。私自身、書店を営む者として、このような土壌があるからこそ、小さなまちでも続けることができていると実感しており、関係の皆さまに深く感謝しているところです。

一方で、厳しい財政状況により、市立図書館の図書資料整備費や管理運営費は大幅に減額され、今後は蔵書の縮小も避けられません。学校図書館の図書購入予算も前年度比でおよそ3分の2に減ってしまいました。図書館予算の削減は、すなわち学ぶ機会の削減です。自治体運営が厳しい時代だからこそ、市民が主体的にまちづくりに関わり、学びを通じて力を高めていくことが、士別市を持続可能にします。

これまで市立図書館は、世代を超えた読書環境の整備と充実を図るなかで、書店や商店街、団体、教職員、サークルなどが連携し、民間の主体的な活動へと広がりを持たせてきました。社会教育活動の一環として育まれてきた「読書による学び」を、今後は市民一人ひとりの力によって維持・発展させていくことが求められています。

そのような思いから、株式会社遊喜は文部科学省の「図書館・学校図書館と地域の連携協働による読書のまちづくり推進事業」を受託し、仲間とともに読書によるまちづくりを進めてまいりました。ここではその取組について報告いたします。私たちの活動が財政状況の厳しさにより読書環境の縮小を余儀なくされている地域の皆様に届くことを期待します。

文部科学省をはじめ関係各位に心から感謝を申し上げるとともに、今後も「本市のすべての子どもが、あらゆる機会、あらゆる場所で、自主的に読書活動を行うことができるよう読書環境を整える」という第3次士別市子ども読書活動推進計画の基本理念を大切に、市民が学び続けられる環境づくりに努めてまいります。

しべつ読書でつなぐまちづくり協議会委員長 喜多武彦
(株式会社遊喜 代表取締役)

もくじ

01	事業の概要	1
02	事業①大人の読書ツアー	4
03	事業②ブックRe:スタート	10
04	事業③読書環境醸成フォーラム	16
05	その他に実施したこと	34
06	まとめ	35
07	資料	38

事業の概要

1. 事業名

しべつ読書でつなぐまちづくり事業

2. 事業実施地域

北海道士別市

3. 協議会

(1) 協議会の構成（「しべつ絵本でつなぐまちづくり実行委員会」がベース※）

- 委員長：喜多 武彦（株式会社遊喜代表取締役・有限会社富喜堂取締役）
- 委員：若林みずほ（絵本専門士）
- 委員：藤田 泰昭（士別南小学校長）
- 委員：石川 里紗（株式会社遊喜取締役・社会教育士）
- 委員：千葉真奈美（士別市教育委員会社会教育課長・社会教育士）
- 委員：藤田 昌宏（市立士別図書館副長・司書）
- 委員：手塚 尚子（士別南小学校司書教諭）
- 委員：石川 究（風連中学校教諭）
- 委員：齊藤 祥子（士別東高校教諭）
- 委員：荒井 宏明（一般社団法人北海道ブックシェアリング代表理事）
- 委員：井上 亮（映像音楽クリエイター）

(2) 協議会の役割

- ・読書環境醸成事業の企画運営及び評価
- ・経理管理
- ・成果報告書の作成及び発信

親子が施設や商店等を巡りながら絵本を読むことなどによって、家庭読書の推進を図る「しべつ絵本ツアー」の実施や、子どもの読書事業への協力などを行ってきた「しべつ絵本でつなぐまちづくり実行委員会」をベースとして協議会を設置した。

本事業実施に当たっては、子どもだけではなく、市民全体の読書環境の醸成を図るほか、住民主体の読書環境の醸成について気運を高めることとしている。

4. 事業の目的等

(1) 現状と課題

市立土別図書館の総貸出冊数は2010年の114,037冊から2023年は94,003冊に減少したが、人口減やコロナ禍の影響によるもので、市民一人当たりでは4.08冊から4.60冊へ増加しており、読書意欲は高まっているといえる。一方、財政悪化によりR7年度の図書資料整備費は大幅削減となり、蔵書削減や図書館機能の縮小、読書環境の悪化が懸念される。

学校図書館では市費で2名の学校司書が6小学校を巡回し、中学校には配置されていない。児童生徒調査（2020年）では、読書好きは約6割を維持する一方、月1冊も読まない割合は小学生12.8%、中学生19.4%、高校生54%に上り、読書離れも進んでいる。ただし、ある小学校の調査では「本を読んだり調べたりできている」が92.8%と、読書の習慣化は一定程度進んでいる。

(2) 事業の目的

財政状況から図書館機能の縮小を余儀なくされている本市において、市民・行政・企業・社会教育士等の連携協働による読書環境醸成のモデル化を行うことで、市立図書館がつくった読書環境を維持・発展させ、多様な主体による市民の読書活動推進を図り、読書による地方創生を実現させる。

(3) 事業名

しべつ読書でつなぐまちづくり事業

(4) 事業の実施

本市においては、市立図書館の事業や学校図書館の充実により子どもの読書環境の充実が図られてきたほか、実行委員会主催の「しべつ絵本ツアー」により、商店や書店と連携した読書活動の推進や商店街の理解促進が図られている。一方、インターネットやSNSの普及などの理由もあり、青年や成人の読書離れは進んでいるところ。親子や子どもを対象とした、官民協働による読書環境充実のノウハウを、本に触れることが減っている青年や成人層に、体験活動とコラボした事業を実施することで、市全体の読書環境のレベルアップを図る。

また、図書館機能の縮小により生み出される多くの除籍図書をただ処分するのではなく、市民に再活用されるアプローチを実施する。さらに、住民主体の読書環境醸成に向けた人材育成を行うために、先進地の実践を聴き、関係者が熟議を行うフォーラムを開催する。

5. 事業の内容

(1) 「大人の教養・娯楽」と「本」のコラボレーション事業

■読書の新たな魅力創出と地域活性化（読書を通じた地域の活性化）

しべつ大人の読書ツアー PREMIUM

- ・ キャンプ場で食事しながらブックトークや読み聞かせ
- ・ 試食しながらアウトドアや読書について語る
- ・ アウトドアや料理に関する除籍図書のプレゼント

(2) 除籍図書の「第二の人生」の充実

■市立図書館の除籍図書の有効活用（読書へのアクセス確保）

ブックRe:スタート

- ・ 高齢者学級において「終活と読書」をテーマにした講話を行い、除籍図書を提供
- ・ 市内小中高等学校の学校図書館で除籍図書フェアを行い、児童生徒へプレゼント
- ・ 除籍図書アウトリーチ。図書館司書、司書教諭、学校司書、ボラなどによる除籍図書ブックトークを行い、参加者へプレゼント（市内イベントを想定）

(3) 読書環境醸成の気運上昇

■住民主体の読書環境醸成に向けた人材育成（読書を支える人材の育成）

読書環境醸成フォーラム

- ・ 住民が主体となり、読書環境を向上する取組を行う実践者の講話（佐賀県伊万里市）
- ・ 専門家や市内読書活動関係者によるパネルディスカッション
- ・ 参加者による熟議「住民主体の読書環境醸成」
- ・ 柳田邦男氏（ノンフィクション作家）による講演

(4) 運営上の工夫

- ・ 市内在住の10名の社会教育士の指導助言による学びの充実
- ・ 市に57者ある「北海道家庭教育サポート企業」の活用
- ・ 市内書店おススメ本のリストを配付して書籍の購入促進
- ・ 市立図書館において関連企画展の実施

「大人の教養・娯楽」と「本」のコラボレーション事業

ねらい

子ども事業のノウハウ
コラボ

青年・成人層の体験活動
読書環境のレベルアップ

読書の新たな魅力

1. 事業名

しべつ大人の読書ツアーPREMIUM

2. 事業概要

(1) 目的

「大人の教養・娯楽」と「本」のコラボレーション活動を通して、読書の新たな魅力を発見し、士別市における地域活性化に寄与する。

(2) 主催

株式会社遊喜

(3) 主管

しべつ読書でつなぐまちづくり協議会

(4) 後援

北海道教育庁上川教育局・士別市教育委員会

(5) 協力

市立士別図書館

(6) 日時

令和7年8月30日（土） 17:00～20:00（受付16:30～）

(7) 会場

つくも水郷公園キャンプ場（士別市）

(8) 対象

読書とアウトドアに興味のある20歳以上の大人 10名
スタッフ・講師あわせて21名の参加

(9) 参加費

500円（食材費・消耗品費・保険料等）

3. 活動内容

Chapter-1

焚火をつくる

4~5人名程度のグループ。
講師の指導により熾した火を囲む。



Chapter-2

焚火で食べる

各自持参した食材を炙って食べる。
グループでシェアも。



Chapter-3

焚火で読む

ゆっくり読書の時間。
除籍図書を紹介した交流も。



Chapter-4

焚火で本を語る

おすすめ本を語り合う。
絵本専門士の「焚火de大人絵本」。



焚火de大人絵本

1 絵本講話

・なぜ大人に絵本？

⇒絵本は読者の年齢や経験、読んだ時の心のありようによって感じ方が異なる。
様々な経験・立場の大人が絵本体験をしたことで、今日だけの交流が生まれる。
読み聞かせによって「絵を読む」「お話を音で味わう」ことができる。

2 アイスブレイク

『どっどこむしずかん』 こどものとも年中向き2023年7月号

作：中村至男 福音館書店

⇒虫の名前あてクイズで自由に発言できる雰囲気づくり
文字なし絵本で絵に注視する流れづくり

3 本日の事業に絡めたテーマ絵本

『ガマ千びき イワナ千びき』

作：最上一平 絵：ザ・キャビンカンパニー 文溪堂 2025年発行

⇒協議会初事業、大人向けアウトドア体験と読書体験のコラボ企画
読み聞かせ後のトークテーマ「挑戦したいことは何？」

4 この瞬間だからこそ楽しめる絵本

『月夜の森で』 切り絵絵本

作：アントワーン・ギョペ 訳：青木恵都 タムラ堂 2018年発行

⇒「月の光」 作曲：ドビュッシー ピアノ演奏音声に合わせた読み聞かせ
切り抜かれた部分から見える景色と影の美しさから、絵本が身近な芸術であることを知る。

読み聞かせ後のトークテーマ「今日読んだ本・今日出合った本」

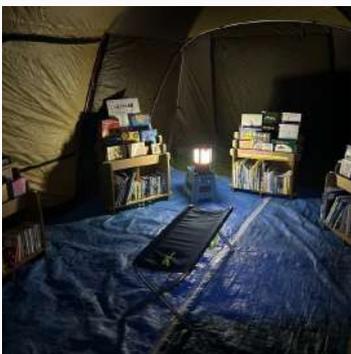
5 大人の読書ツアーを振り返る絵本

『だんろのまえて』

作・絵：鈴木まもる 教育画劇 2008年発行

⇒働く大人へのメッセージ性があり、焚火の効果が伝わる絵本
「疲れたら 休んでいいんだよ」

読み聞かせ後のトークテーマ「今日の読み聞かせで感じたこと」



4. 活動のふりかえり

(1) 参加者アンケートまとめ

ア 定量結果（回答者6名）

- ・ 事業は楽しかったか とても良かった 83%（5名）／良かった 17%（1名）
- ・ 読書への関心 広がった 67%（4名）／変わらない 33%（2名）
- ・ アウトドアへの関心 広がった 50%（3名）／変わらない 50%（3名）

イ 自由記述の傾向

(a) 事業の魅力

- ・ 「普段関わらない人との交流」「非日常的な体験」「焚火の雰囲気」が好評。
- ・ 読書そのものだけでなく、自然や人とのつながりが満足度を高めていた。

(b) 読書への関心

- ・ 多くが「広がった」と回答。
 - 非日常環境での読書が新鮮だった。
 - 焚火やコーヒーと組み合わせるなど、新しい読書スタイルを発見。
 - 読書会的な交流が刺激になった。
- ・ 「変わらない」とした人は、もともと読書好きで関心が高かった。

(c) アウトドアへの関心

- ・ 「広がった」…焚火体験が新鮮、自然の魅力を実感。
- ・ 「変わらない」…アウトドアが苦手、もともと好きだから変わらない。
- ・ 読書を入口に、アウトドアへの肯定的な印象が広がった。

(d) 今後のまちづくりアイデア

- ・ 飲食とのコラボ（コーヒー、パン、ベーグルなど地元店と連携）
- ・ 音楽・絵本との組み合わせ（BGMを流す、絵本の朗読イベントなど）
- ・ テーマ別読書会・課題図書交流（本好き同士の深い対話、見学参加も可）
- ・ 本の交換会・フリーマーケット（不要本の持ち寄り、交換や販売）
- ・ ファミリー向け展開（親子でも参加できる形）

(2) モデル事業としての方向性

■非日常性の演出が参加者満足度を高める

焚火や自然環境と読書を組み合わせるなど、日常では味わえない環境が交流や自己内省を促す。

■交流と多様性を大切に

世代・立場を超えた交流の機会をつくることで、地域住民同士が新しいつながりを持てる。

■読書体験の広がりを意識する

コーヒーや音楽、絵本などと掛け合わせることで、読書への関心が広がり、普段読書に親しみがない層も参加しやすくなる。

■アウトドアとの融合は有効だが柔軟に

「広がった」「変わらない」と両方の声がある。無理にアウトドアを強調せず、苦手な人でも楽しめる工夫を取り入れる。

■地域資源を活かした連携を重視

地元のカフェやパン屋、音楽家、市内イベントなどとコラボすることで、地域経済や文化ともつながる。

■運営面では広報と時間設定が鍵

SNSだけでなくポスターなど従来型媒体も有効。開催時間や季節設定も、地域特性に応じて最適化する必要がある。

■知財・予算処理は事前準備を

著作物使用料など、法的・予算的な準備を計画から組み込むことが必要。

■スタッフチームの協働が成功の要因

役割分担とチーム力が円滑な運営を支えた。他地域で実施する場合も、専門性を持つ人材を含めたチームづくりが不可欠。

■次年度以降の継続を見据えた仕組みを

一度きりのイベントにせず、読書会・交換会など小規模な取組に発展させることで、まちづくりに持続的な効果を与える。



「焚火×本」事業企画展

しべつ大人の読書ツアーPREMIUM[「焚火×本」]の様子を紹介したほか、事業で扱った書籍やアウトドア関連本などを展示・貸出する企画展。

市立土別図書館の協力により1か月程度実施して、事業の成果を還元できるようにした。

除籍図書の「第二の人生」の充実



1. 事業名

ブックRe:スタート

2. 事業概要

(1) 目的

多世代の市民が集うイベントや生涯学習の場に出向いて、学んだり楽しんだりして市立図書館の除籍図書の有効活用を図る。

(2) 実施した活動

ア 除籍図書アウトリーチ

- ・道の駅のイベントで除籍図書の提供
- ・「はたちを祝う会（旧成人式）」で除籍図書の提供

イ 市内公立学校の学校図書館で除籍図書フェア

ウ 高齢者の学びの場で除籍図書の提供

3. 除籍図書アウトリーチ

(1) 道の駅のイベントで除籍図書の提供

- ア 日時
令和7年10月13日（祝） 10:00~14:00
- イ 会場
道の駅「羊のまち 侍・しべつ」
- ウ 対象
道の駅のイベント秋まつりを訪れた市民等
- エ 内容
市立士別図書館の除籍図書等の提供
- オ 提供した図書
約300冊中、227冊の提供
訪れた市民等117人



03 事業②ブックRe:スタート

(2) 「はたちを祝う会（旧成人式）」で除籍図書の提供

- ア 日時
令和8年1月11日（日） 14:00~15:00
- イ 会場
士別市民文化センター
- ウ 対象
はたちを祝う会の対象者等
- エ 内容
対象者が幼少の頃に読まれた本の展示
市立士別図書館の除籍図書等の提供
- オ 提供した図書
約110冊中、32冊の提供
訪れた市民等150人



4. 市内公立学校の学校図書館で除籍図書フェア

(1) 概要

- ア 事業名
ブックリサイクルたんていだん
- イ 日時
令和7年11～12月
- ウ 会場
士別市内の各公立学校
(小学校6校・中学校4校・高校2校)
- エ 対象
士別市内の児童生徒
- オ 内容
図書館クイズ
除籍図書の説明プリント配付
市立士別図書館の除籍図書を児童生徒に提供
- カ 提供した図書
総冊数340冊
(小学校：220冊 中学校：140冊 高校：40冊)



5. 高齢者の学びの場で除籍図書を提供

(1) 概要

- ア 事業名
学び舎「つくも」
- イ 日時
令和7年11月12日（水） 13:30~15:00
- ウ 会場
士別市生涯学習情報センター 視聴覚室
- エ 対象
「学び舎つくも」の聴講生 31名
- オ 講師
協議会委員 若林みずほ（絵本専門士）
- カ 内容
テーマ「終活と読書」
(a) 認知症予防効果のある読書法
(b) 自分、残された世代、地域の「三方よし」の読書法
(c) 「桃太郎」の秘密の読み比べ
○市立図書館「リサイクル市」への参加
- キ 提供した図書
リサイクル市に置かれた除籍図書 約30冊

【学び舎「つくも」とは】

士別在住の60歳以上を対象とした学習機会。月1回程度、講座の受講や体験活動を行うほか、自主的にサークル活動に取り組んでいる。本事業は主催者である士別市中央公民館との連携により、講座の一つを「読書」にあてたもの。



「終活と読書」事業企画展

本講座で使用した書籍等の展示を行った市立士別図書館の協力により1か月程度実施して、事業の成果を還元できるようにした。

講座「終活と読書」



本日の話題

1. 人生のしまいかた 終活
2. 認知症予防と読書
3. 読み手・聞き手・活動先の「三方よし」読み聞かせ
4. やってみよう！ 健口(けんこう)体操
5. どんな本を読む？ 選書のポイント

3. 読み聞かせのポイント 読み手・聞き手・活動先の「三方よし」

- 自分（読み手）への効果
- 受け手（聞き手）への効果
- 活動先（地域・場）への効果

シニアへの効果

心理的效果

- 自尊心
- 自己効力感
- 感受性
自分だけの感想
- 共感力
- ネットワーク



認知機能効果

- 回想
- 記憶力
- 実行機能速度
- 言語能力

身体的効果

- 身体活動増加
- 活舌・発声
- 誤嚥防止

受け手への効果

- 文字離れ予防
- 聞く力向上
- 集中力向上
- 絵を見る力
- 想像力向上



- 共通体験
- 安心感⇒情緒安定
- 言葉の増加
- 文化継承
- 尊敬・感謝

活動先(地域)への効果

- 文化継承
- 尊敬
- 健康寿命
- 異年齢交流



- 知のまちづくり
- まちの活性化
- ボランティア
- 活躍の場

4. やってみよう！ 健口(けんこう)体操

- お口、舌の動きをスムーズにする体操
- パタカラ体操
- 唾液腺マッサージ
- あいうべ体操

5. どんな本を読む？ 選書のポイント

- 誰に対して？
- どこで？
- 時間は？
- 何を？
- どうやって？

心が動く本を！

⇒ 読んだあとに
満ち足りた時間の共有



読書環境醸成フォーラム



有識者・先進地から学ぶ
熟議
住民主体の読書環境づくり
読書を支える人材育成
市内及び広域による繋がり

1. 事業名

士別市読書環境醸成フォーラム～読書による「知のまちづくり」

2. 事業概要

(1) 目的

読書推進の活動について有識者や先進地から学ぶことを通して、士別市における住民主体の読書環境醸成に向けた人材育成を図る。

(2) 主催

株式会社遊喜

(3) 主管

しべつ読書でつなぐまちづくり協議会

(4) 後援

北海道教育庁上川教育局・士別市教育委員会

(5) 協力

市立士別図書館

(6) 日時

令和8年2月8日（日） 13:00～16:15（受付12:30～）

(7) 会場

士別市生涯学習情報センター

(8) 対象

読書活動を推進するまたは興味のある市民等38名
スタッフ・講師・来賓あわせて60名の参加

(9) 参加費

無料

3. 事業内容



実践発表①

「住民主体の読書活動推進」

■しべつ読書でつなぐまちづくり協議会の実践
協議会委員 若林みずほ（絵本専門士）

「『行政任せ』から『官民協働』へ～持続可能な読書のまちづくり」

- 市立図書館と学校図書館の連携と実績、ボランティア活動に支えられた、士別市に根付く読書文化という豊かな土壌。
- 行政機能の縮小を見据えた、「行政任せ」から「官民協働」への転換による読書環境の再構築。
- 民間活力を導入した「しべつ読書でつなぐまちづくり事業」の推進。
- 絵本専門士を核とした、絵本・人・場をつなぐ読書活動の展開。
- 朝読書・家庭読書・図書館・まちなか読書など、多様な読書機会の創出。
- 「焚火×食事×読書」による非日常体験を通じた、大人の読む心の喚起。
- 図書館の除籍図書を、市民をつなぐツールとして再活用。
- 絵本専門士による講話など、専門性を生かした学びの機会の提供。
- 行政、絵本専門士、社会教育士、司書、教職員、学校司書等による多職種連携のチーム協働体制。
- 市民主体の推進による、子どもから大人まであらゆる機会・場所で自主的に読書できる環境整備という将来像。





実践発表②

「住民主体の読書活動推進」

■佐賀県伊万里市の実践

伊万里市民図書館読書活動推進係長 小柳 良子 様

「住民が輝く読書のまちづくり～伊万里市民図書館の事例から」

- 「伊万里をつくり市民とともにそだつ市民の図書館」を目標に掲げた図書館運営。
- 開館前からの市民参加による、市民との協働を基盤とした図書館づくり。
- 乳幼児から小中学生までを対象とした、切れ目のない児童サービスの展開。
- ブックスタートやおはなし会、自動車図書館など、本が身近にある生活の定着。
- 子どもが自ら本を選べる書架配置や快適な読書席など、市民の意見を反映した館内環境の整備。
- おはなし会、布絵本制作、対面朗読など、多様なボランティアグループによる読書活動の支援。
- 約300名の会員を有する友の会をはじめとした、市民が図書館を守り育てるパートナー関係の構築。
- ボランティアが活動できる場の提供による、生きがいの創出と市民の成長。
- 「子どもが本を読まないまちに、未来はない！」を掲げた地域ぐるみの読書推進。
- 家読連絡会やまちかど絵本箱「えほんのたね」など、住民主体の読書によるまちづくりの実践。

市民との協働

図書館のボランティアグループ

- おはなしキャラバン(おはなし会)
- てんとう虫の家(布作品制作)
- 草ひばり(対面朗読)
- 伊万里華道連盟(生花展示)
- いずの木合唱団(図書館専用の合唱団)
- 古伊万里ライオンズクラブ(庭園掃除)
- ☆まつり実行委員会 など



図書館を支えているのは「市民の力」

ボランティアが活動できる「場の提供」によって

「生きがい」の創出→市民も育つ

地域ぐるみで読書の推進

自分の住むまちの現状や問題点を認識し
すべての関係者が考え、協力し、問題を解決し、良い点をのばす過程



「子どもが本を読まないまちに、未来はない！」
H7～伊万里市民図書館のスローガン

黒川町まちかど絵本箱「えほんのたね」

24時間 365日、誰でも自由に読本が借りられます！



住民が輝く読書のまちづくり



パネルディスカッション

「これからの読書環境の在り方」

■パネラー

伊万里市民図書館 読書活動推進係長	小柳 良子 様
市立土別図書館副長（協議会委員）	藤田 昌宏
絵本専門士（協議会委員）	若林みずほ

■コーディネーター

土別市立土別南小学校長（協議会委員）	藤田 泰昭
--------------------	-------

□パネルディスカッション要旨

- ・実践発表を踏まえた、読書を核とする学び続けられる環境づくりに関する討議
- ・多様な主体の協働によって読書環境を支える伊万里市と土別市に共通する理念の確認

【実践への評価・導入】

- ・官民連携のもとで展開される土別市の取組への評価
- ・まちへの強い思いを持つ人材の存在への着目
- ・「本が身近にある生活をあたりまえにしたい」という共通理念の再認識

【読書環境の現状】

- ・市民に支えられてきた図書館運営と読書活動の継続
- ・創作活動や読み聞かせなど、多様な市民主体の実践の蓄積
- ・市民の思いを起点とし、図書館が支援する形への発展

【小柳良子氏：市民と共に育つ図書館】

- ・厳しい財政状況における市民団体主体の実行委員会方式による事業継続
- ・参加団体が得意分野を生かして関わることによる交流の創出
- ・市民の声を丁寧に受け止める姿勢と対話を基盤とした連携
- ・読書に直接関わらない団体の参画による環境向上
- ・「市民とともに成長する図書館」を目指す運営方針

【若林みずほ氏：人のつながりを基盤とした活動】

- ・教員としての限界認識を契機とした市民活動への展開
- ・地域の理解者との出会いによって生まれた取組
- ・活動を担う大人自身が楽しむ姿による共感の拡大と参加者の増加
- ・学び続けられる環境の本質を「人」に見出す視点
- ・互いに刺激を受けながら育ち合う関係による地域力の向上

【藤田昌宏氏：地域を結ぶ拠点としての図書館】

- ・ 限られた予算の中での職員の創意工夫による事業展開
- ・ 学校図書館との蔵書補完など、地域全体での読書資源の有効活用
- ・ 人と本、人と人とを結び付ける場としての図書館の役割
- ・ 市民が集い、生きがいや幸福感を得られる地域づくりの目指す方向性

【連携の要点】

- ・ 市民の声の把握と適切な反映
- ・ 十分な対話を通じた相互理解の形成
- ・ 活動を担う大人が楽しむ姿の発信
- ・ 読書に直接関わらない分野を含めた多様な主体の参画

【討議から示された方向性】

- ・ 教員、図書館、ボランティアなど各主体が抱える役割と限界の共有
- ・ 弱点を補完し合う連携による活動の強化
- ・ 思いの共有と協働による持続可能な読書環境の構築
- ・ 学び続けられるまちの実現に向けた基盤形成





熟議

「市民の手による読書環境醸成」

■進行

北海道教育庁上川教育局社会教育指導班主査 田阪 直也 様

- ・ 10グループ（1G4名）によるラベルワーク
- ・ 「読書」がしたくなる環境をどうつくるか
- ・ 大人がワクワクする読書環境づくりのアイデア出し
- ・ 社会教育士が各グループでファシリテート



熟議資「市民の手による読書環境醸成」のアイデア①

1. 読書を身近にする工夫

- ゆったり読める空間づくり（ゴロゴロ読書、リラックス空間）
- 大人も子どもも一緒に楽しめる読書企画
- 特集×コメント、本+音楽など「手に取りたくなる仕掛け」
- みんなの本棚の設置、気軽に交換できる仕組み

2. 図書館のアップデートと空間づくり

- 図書館+カフェ（ソファ、飲み物、音楽、香り）★
- 図書館本の外部コーナー設置・貸出可能化
- 点字絵本・音声絵本などバリアフリー対応（図書パラリンピック）★
- 図書館ツアー、図書館探検、お泊り会★など参加型企画

3. 除籍本・リサイクル本の活用

- 保育園・高齢者施設・病院・駅★などへの配置
- カフェに並べる、読書会の素材にする
- 読まれなくなった本の寄贈の回覧（自治会とのコラボ）★

4. 読書 × 他分野のコラボレーション

- 食 × 読書（ラーメン屋で読書会、本の中の料理を作る）
- 運動 × 読書（部活、ヨガ、ストレッチ、健康ワークショップ）
- 自然 × 読書（屋外・緑道・公園での読書）
- 芸能 × 読書（音楽、映画、落語、踊り）★
- 鉄道 × 読書（時刻表や鉄道地図を観ながら）
- 災害 × 読書（防災知識の共有）

5. 世代・地域をつなぐ読書企画

- 子ども vs 大人ビブリオバトル
- 大人同士の本紹介、思い出の絵本のを語る会★
- ボードゲームで異世代交流★
- 学校間の読書活動交流
- まちの歴史を同じ本で交流し共有する
- 高齢者への読み聞かせ

★：参加者間の「いいね」が多かったアイデア

熟議 「市民の手による読書環境醸成」のアイデア②

6. まちの資源を活かした読書の場づくり

- 緑道の散策と読書
- 寺での読書体験
- Barで読書（酒 × 読書）★
- 近所のお店での出張発表

7. 企業・団体との連携

- 図書館に企業情報を掲示し、連携を可視化
- 赤ちゃん家庭の「あるある」づくり × 本
- 企業が学びの場を提供する仕組み
- 出前読書会、住民向け読み聞かせ

8. 本紹介文化の強化

- テーマ縛りの本紹介（かわいい系、推理系など）
- ビジネスマン向け、中高生向けの本紹介
- 音楽ライブ × 本紹介★
- 読んだ本が成長に与えた影響を共有する広報
- 図書館スタンプラリー

9. 参加型・体験型の読書企画

- 本の中のものを作る（料理、衣装、道具）
- 児童手帳風カードで読書体験を記録
- かまくらの中で一人読書★
- 音のある読書会（五感にアプローチ）★
- 好きな本でマッチング婚活★

10. その他

- 読書感想文コンクールをやめる（「嫌い」の要因を取り除く）
- 本を通して人を知る
- 自治体間の連携（近隣市町村の図書館利用）
- 市民の「やってみたい」を実現させる

★：参加者間の「いいね」が多かったアイデア

04 事業③読書環境醸成フォーラム

Cグループ



Dグループ





講演

「読書による『知のまちづくり』」

■講師

ノンフィクション作家 柳田 邦男 様



1936年栃木県生まれ。NHK記者から作家活動に。「生と死」をテーマに、戦争、災害、事故、病気などの問題を現場重視の視点で掘り下げ、ドキュメンタリーな作品や評論を60年以上にわたり書き続けている。1972年『マッハの恐怖』で第3回大宅壮一ノンフィクション賞、1979年『ガン回廊の朝』で第1回講談社ノンフィクション賞、1995年『犠牲(サクリファイス)わが息子・脳死の11日』などで菊池寛賞、1997年『脳治療革命の朝』で文藝春秋読者賞、2013年『原発事故 私最終報告書』で第74回文藝春秋読者賞を受賞。近年は、絵本が子どもにも大人にも心の成長・成熟に深い影響を与えることに注目し、エッセイ『大人が絵本に涙する時』『みんな、絵本から』や、翻訳絵本『エリカ 奇跡のいのち』『ヤクーバとライオン』『だいじょうぶだよ、ゾウさん』『くもをおいけてごらん、ピープー』などの著書がある。

■概要

- 「知のまちづくり」とは、知識偏重ではなく、人間が本来もつ自然な成長や営みを大切にすまちづくりの理念である。
- 安心して子どもを産み育てられる環境づくりや、子どもがのびやかに成長できる社会の実現を重視する。
- 障害者・病者・高齢者が差別されず、誰もが安心して暮らせる包摂的な地域を目指す。
- 教育・文化・スポーツが活発で、虐待・いじめ・暴力・犯罪のない社会を理想とする。
- 行政、市民、各種団体が共通の理念としてこの視点を持ち続けることが重要である。
- スマートフォンやネットが普及した時代だからこそ、人の温かさやつながりを大切にする姿勢が基本となる。
- 「知のまちづくり」は「知の地域づくり」とも言い換えられ、その拠点として絵本館や図書館の役割が期待される。
- 「待ち」の絵本館・図書館から、「出かける」絵本館・図書館へ。
- 図書館は蔵書数を誇る場ではなく、人々が集い、本に親しみ、共通の話題を通して交流を深める場となることが望ましい。
- この取組が素晴らしいと思うのは、地元にも根付き、子どもたちと真剣に読書活動に取り組む姿は高く評価され、大きな刺激となった。
- こうした実践が全国に広く知られるよう、今後エッセイ等を通じて発信していきたい

4. 事業のふりかえり

(1) 参加者アンケートまとめ

ア フォーラム全体の評価

- ・ 実践発表とパネルディスカッションの両方から具体的なヒントを得られたとの声。
- ・ 他地域の事例を知ること、自身の活動を振り返る機会になったとの感想。
- ・ 行政・図書館・学校・市民が一堂に会して議論できた意義への評価。
- ・ 「読書によるまちづくり」というテーマが明確で、方向性が共有しやすかったとの意見。

イ 印象に残った内容

- ・ 官民協働による読書環境づくりの具体例。
- ・ 予算が限られる中でも、市民の力で事業を継続している実践。
- ・ 活動を担う大人自身が楽しむ姿勢の重要性。
- ・ 読書を“非日常体験”や“交流”と組み合わせる発想。
- ・ 図書館が「人と人をつなぐ場」とあるという視点。

ウ 読書活動への意識の変化

- ・ 自分にできることから始めたいという前向きな意欲。
- ・ 学校や団体内だけで完結しない連携の必要性への気づき。
- ・ 読書を「教育活動」にとどめず、地域づくりの視点で捉える意識の広がり。
- ・ 中高生や若い世代の参画を意識した取組への関心。

エ 今後の取組に向けた提案・アイデア

- ・ 学校と市立図書館のさらなる連携強化。
- ・ 中学生・高校生が参加できる企画の創出。
- ・ テーマ別読書会や対話型の交流企画の実施。
- ・ 地域店舗や団体とのコラボレーション。
- ・ まちなかや公共空間を活用した読書の場づくり。
- ・ 継続的な協議・情報共有の場の設置。

04 事業②読書環境醸成フォーラム

オ 次年度に向けたヒント

■協働の可能性の再確認

学校、図書館、行政、ボランティア、市民それぞれの立場には限界がある一方、連携によって弱点を補完し合えることを参加者が実感。

■対話の場としてのフォーラムの意義

多様な立場の参加者が率直に意見交換できたことが、今後の具体的行動への動機づけに。

■読書の再定義

読書を「本を読む行為」だけでなく、「人とつながる営み」「まちを育てる文化活動」として捉える視点の共有。

■若い世代への接続の課題

中高生の関与や学校段階間の接続について、今後の検討課題として認識。

■継続的な仕組みづくりの必要性

一過性のフォーラムにとどめず、小規模な読書会や連携会議など持続可能な取組への発展の必要性。

■“楽しさ”を原動力とする活動

義務感ではなく、活動する大人自身が楽しむ姿勢が人を引き寄せるとの認識。

■地域資源の活用

地元団体や専門人材との連携を通じた読書環境の拡張の可能性。



(2) スタッフによるふりかえり

ア 運営面の成果

- ・役割分担が明確で、大きな混乱なく進行できたこと。
- ・実践発表が簡潔かつ的確にまとめられ、聞くだけでなく対話に生かせる構成となっていたこと。
- ・実践発表・パネルディスカッション・講演がバランスよく生まれ、講演の有無にかかわらず満足感のある内容であったこと。
- ・市内外から多様な立場の参加者が集い、自由に意見を交わす前向きな雰囲気が醸成されたこと。

イ 課題として挙げられた点

- ・市内参加者の広がりが限定的であり、より多様な世代・立場への周知の工夫が必要であること。
- ・若い世代、とりわけ中高生の参加や当事者性の確保に課題があること。
- ・時間配分や交流時間の確保について、なお検討の余地があること。
- ・観光や地域資源との接続など、読書をまちづくりへ展開する具体化が今後の課題であること。

ウ パネルディスカッションを通して見えたこと

- ・読書は本来個人的営みである一方、共有や体験を通して他者とつながる契機となること。
- ・読む人・読まない人の差が顕在化する中で、出会いを生む環境づくりの重要性。
- ・実践や講演を通して、本事業の理念や意義が改めて整理・共有されたこと。
- ・立場や世代の違いを前提に対話することの価値と可能性。

エ 次年度に向けたヒント

■継続的な対話の場の設定

単発に終わらず、小規模でも自由に意見交換できる協議・交流の場の継続。

■若い世代との接続

中高生を含む多様な世代が参画できる仕組みの検討。

■主体間の連携強化

学校、図書館、市民、行政それぞれの強みを生かした機動的な連携の推進。

■運営体制の見直し

準備段階からの情報共有と役割の明確化、参加対象拡大に向けた広報の工夫。

■読書を基盤としたまちづくりの具体化

地域ゆかりの人材や文化資源とも結び付け、読書を核としたまちづくりの展開



主催者挨拶
株式会社遊喜代表取締役 喜多武彦



来賓挨拶
北海道教育庁社会教育課課長補佐 長岡広之 様



本協議会の活動紹介



ブックRe:スタート (除籍図書の活用)



柳田邦男先生 著作コーナー



ファシリテーショングラフィック



ファシリテーショングラフィックの様子



講評
北海道教育庁上川教育局長 今村隆之 様

その他に実施したこと

1. 書店と図書館の連携



- ・士別市読書環境醸成フォーラムにおいて、柳田邦男氏が紹介した絵本の企画を、書店と図書館で同時に実施

2. 社会教育士の活用

- ・市内在住の社会教育士の指導助言による事業の企画運営
- ・フォーラムの熟議におけるファシリテート（10名）

3. 企業等との連携

- ・市内57者の「北海道家庭教育サポート企業」への事業周知及び社員等の参加

4. SNSの活用

- ・公式Facebook及びInstagramによる事業周知及び成果発信



instagram

Facebook



まとめ

1. 文科省へ報告した内容

(1) 事業実施結果及び成果の概要

本事業は、「読書でつなぐまちづくり」をテーマに、図書館・学校図書館を中核として、学校・家庭・地域・書店・ボランティア等の多様な主体が連携し、読書活動を通じた地域づくりのモデル構築を図ることを目的として実施した。年度当初に協議会を設置し、教育委員会、図書館、学校関係者、読書ボランティア、民間事業者が参画する推進体制の下、地域の実情を踏まえた実施計画を策定し、事業を段階的に展開した。

具体的には、除籍図書の有効活用を通じて市民の読書機会を広げる「ブック Re:スタート」の取組、学校・図書館・地域団体が協働する読書活動の場づくりに加え、官民連携による「土別市読書環境醸成フォーラム～読書による『知のまちづくり』～」を中核事業として位置付けた。フォーラムには、市内外から図書館職員、教職員、読書ボランティア等約60名が参加し、実践発表、熟議、講演を通して、読書を基盤とした地域の学びと交流、連携協働の在り方について共有・検討した。特に熟議の場では、「読書と他分野との連携」「世代や地域をつなぐ企画」「地域資源や地元書店を活かした読書の場づくり」等、今後の行政計画や地域実践に反映可能な具体的アイデアが多数示され、関係主体が役割を分かち合いながら継続的に取り組む必要性が明らかとなった。

これらの取組を通じて、厳しい財政状況下においても、読書を共通基盤とした人と人とのつながりや、子どもを含む市民の学び続ける姿を地域全体で支えることの意義が共有され、図書館・学校図書館と地域の連携協働による読書のまちづくり推進事業の趣旨に沿った成果をあげることができた。

(2) 各事業実施により得られた効果

本事業により、まず「ブック Re:スタート」等の取組を通して、除籍図書の活用が進み、これまで図書館利用が少なかった層にも本が届く新たな読書機会が生まれた。また、読書環境醸成フォーラムや各種イベントの開催により、図書館・学校・地域団体・書店・ボランティア等が一堂に会して実践を共有し合い、相互の役割や強みを理解しながら連携の具体像を描くことができた。特に熟議の場では、「読書と他分野とのコラボレーション」や「まちの居場所としての読書空間づくり」など、多様な主体が協働して取り組むためのアイデアが多数提示され、次年度以降の事業や計画に反映可能な方策が整理された。これらの成果により、読書を核とした地域づくりに対する関係者の意識が高まり、継続的なネットワーク形成と実践の広がりにつながる基盤が醸成された。

(3) 成果測定指標・測定結果

■市立図書館の貸出冊数（8～1月）

R6 38,764冊 → R7 33,451冊

■小学校の学校図書館の貸出冊数（年間）

R6 8,254冊 → R7 9,009冊

(4) 事業成果の普及

市立図書館の貸出冊数は、予算削減の影響により新刊図書の購入冊数が減少していること等から減少傾向が見られた。一方で、小学校の学校図書館の貸出冊数は増加しており、協議会の活動や学校・地域と連携した読書活動の取組が、子どもの読書機会の拡充につながったと考えられる。図書館単体の利用指標のみではなく、学校図書館や地域での読書活動を含めた読書環境全体の広がりを重視しており、今後も関係主体の連携を通じて読書機会の拡充を図っていく。

また、本事業では単発のイベントにとどめず、図書館・学校・地域団体・書店・ボランティア等による協議会を設置し、継続的な連携体制を構築した点に特徴がある。「ブック Re:スタート」による除籍図書の活用や、市内店舗・公共施設でのミニ展示、SNS（Instagram・Facebook等）を活用した情報発信により、事業の趣旨や実践内容を市民に広く周知し、日常生活の中で読書に触れる機会の拡充を図った。

さらに、読書環境醸成フォーラムや熟議の場で得られた具体的なアイデアや実践例については、次年度以降の協議会活動や図書館・学校図書館の取組に反映していく予定である。

今後は、本事業の実施過程や成果を報告書等として整理し、関係機関や他自治体にも紹介することで、財政制約のある市町村においても実践可能な読書による「知のまちづくり」の取組として普及・共有を図っていききたい。

(5) 事業完了後の課題及び今後の取組について

本事業では、図書館・学校図書館を中核として、教育委員会、学校、読書ボランティア、民間事業者等が連携し、読書活動を通じた地域づくりの実践を実施した。その結果、除籍図書を活用したアウトリーチ型の読書機会の創出や、読書環境醸成フォーラムを通じた実践交流により、関係主体が相互の取組や課題を共有し、読書を基盤とした地域連携の可能性を確認することができた。特に、図書館・学校・地域団体等が一堂に会して実践を持ち寄り議論する場を設けたことにより、読書活動を個別の取組としてではなく、地域全体で支える取組として捉える視点が共有された。

一方で、取組を継続的かつ発展的な活動としていくためには、いくつかの共通課題も明らかとなった。具体的には、図書館・学校・地域団体等の間での情報共有や連携を日常的に行う仕組みの整備、読書活動を担う人材の確保・育成、限られた人的・財政的資源の中で持続可能な運営体制を構築することなどが挙げられる。また、除籍図書の活用やアウトリーチ型の読書活動については一定の成果が見られたものの、地域住民の多様な読書ニーズに応じた展開方法や、より多くの市民が関わるための周知・参加の仕組みについては、今後さらに検証と改善を重ねていく必要がある。

今後は、本事業を通して得られた実践や協議会での議論を基に、図書館・学校図書館と地域の多様な主体が連携する読書活動の仕組みを整理する。また、フォーラム等を通じて得られた具体的な提案やアイデアを継続的な取組として発展させるとともに、事業の成果や課題を広く発信することで、同様の課題を抱える他地域の参考となる実践事例として共有していききたい。

2. 成果と課題

(1) 成果

- ・ 委員それぞれの専門性や人脈を生かし、民間の力を最大限に活用した協働が実現できたこと。
- ・ 小規模で距離感の近い事業展開により、参加者同士が主体的に関わる雰囲気が醸成されたこと。
- ・ 図書館や除籍本に限らず、図書館外で本に触れられる環境づくりへの視点が共有されたこと。
- ・ 熟議やフォーラムを通して、読書を軸としたまちづくりは行政のみならず市民主体でも可能であるという認識が広がったこと。

(2) 課題

- ・ 業務量の偏りや役割分担のさらなる工夫。
- ・ 図書館との連携強化および継続可能な協力体制の構築。
- ・ 若い世代の参画および中高生世代との接続。
- ・ 事業の継続性を見据えた担い手の拡充。

3. 次年度に向けて

- ・ まちライブラリーの発想による、市内各所への小規模読書空間の設置検討。
- ・ 全世代型の事業展開（乳幼児・保護者・企業研修等を含む多様な対象設定）。
- ・ キャリア教育的視点による、大人の生き方や挑戦を子どもに示す取組との接続。
- ・ 動画等の発信基盤整備など、持続可能な情報発信体制の確立。

4. モデル事業としての観点（予算を最小限に抑える工夫）

- ・ 既存施設や空間の活用。
- ・ 除籍本だけに頼らず、市民からの寄贈や循環を活用する発想。
- ・ 小規模・高密度型の事業設計により、大規模イベント化を避けた運営。
- ・ 義務感ではなく、自発的参加を原動力とした体制づくり。

1. プレスリリース

報道各位

2025年8月8日

株式会社遊喜

PRESS RELEASE

株式会社遊喜による 「しべつ読書でつなぐまちづくり事業」について

文部科学省委託「図書館・学校図書館と地域の連携協働による読書のまちづくり推進事業」

士別市子どもの読書活動推進計画には、「本市のすべての子どもが、あらゆる機会、あらゆる場所で、自主的に読書活動を行うことができるよう読書環境を整え」ることを目指すとしており、市立図書館や学校図書館の取組により、読書好きの子どもが多いほか、市立図書館の貸出冊数は人口減少する中、コロナ禍以前に戻りつつあります。

そのような中、財政状況の悪化などの理由から図書館や学校図書館の予算が減り、図書館機能の縮小が余儀なくされているところです。士別市を持続可能なまちにするために、市民の学びは必要不可欠であるとの考えから、株式会社遊喜では市民による協議会を設立し、文部科学省の事業受託により、読書環境を官民連携のマンパワーによる維持・発展に取り組むこととしました。

事業概要

01 読書を通じた地域の活性化

しべつ大人の読書ツアー PREMIUM（詳細別紙）8/30

- ・「焚火×本」のコラボ。新たな魅力の創出
- ・焚火を囲んで飲食しながら、読書について語る。絵本専門士の読み語り

02 除籍図書の「第二の人生」の充実

ブックRe:スタート

- ・高齢者学級で「終活と読書」の講話を行い、除籍図書をプレゼント 11月
- ・市内学校の学校図書館で除籍図書フェアを行い、児童生徒へプレゼント 10月
- ・除籍図書のブックトークを行い、参加者へプレゼント。（市内イベント） 1月

03 読書環境を支える人材の育成

読書環境醸成フォーラム（仮） 2/8（日）午後

- ・住民主体で、読書環境をよりよくする取組を行う実践報告（佐賀県伊万里市）
- ・専門家や市内読書活動関係者によるパネルディスカッション
- ・参加者による熟議「住民主体の読書環境醸成」
- ・柳田邦男氏（ノンフィクション作家）による講演

協議会について

毎年、しべつ絵本ツアーを実施する「しべつ絵本でつなぐまちづくり実行委員会」をベースとして協議会の設置。これまで「絵本ツアー」など、子どもの読書事業への協力などを行ってきたが、本事業実施に当たっては、子どもだけではなく、市民全体の読書環境の醸成を図ることとしている。



しべつ絵本ツアーから

協議会の構成について

委員長：喜多 武彦（株式会社遊喜）
 委員：若林みずほ（絵本専門士）
 委員：藤田 泰昭（土別南小学校長・事務局）
 委員：石川 里紗（株式会社社会遊喜・事務局）
 委員：荒井 宏明（一社ブックシェアリング代表）
 委員：井上 亮（映像音楽クリエイター）
 ほか、図書館・市教委・教諭・社会教育士など



しべつ絵本ツアーから

公式SNSの開設について

事業周知や成果発信などの目的で、公式SNSを開設します。



Facebook

instagram



お問い合わせ先

しべつ読書でつなぐまちづくり協議会

委員長：喜多 武彦

事務局（庶務）：石川 里紗

事務局（事業）：藤田 泰昭

2. 大人の読書ツアーPREMIUM

文部科学省「図書館・学校図書館と地域の連携協働による読書のまちづくり推進事業」

しべつ大人の読書ツアーPREMIUM 開催要項

- 1 目的 「大人の教養・娯楽」と「本」のコラボレーション活動を通して、読書の新たな魅力を発見し、士別市における地域活性化に寄与する。
- 2 主催 株式会社遊喜
- 3 主管 しべつ読書でつなぐまちづくり協議会
- 4 後援 北海道教育庁上川教育局・士別市教育委員会
- 5 協力 市立士別図書館
- 6 期日 令和7年8月30日(土) 17:00~20:00 くらい(受付 16:30~) ※小雨決行
- 7 会場 つくも水郷公園キャンプ場
- 8 対象 読書とアウトドアに興味のある20歳以上の大人 10名程度
- 9 参加費 500円(食料費・消耗品費・保険料等)
- 10 講師 工藤 博文氏(アウトドアショップ「森の遊人」店主) / 若林みずほ氏(絵本専門士)
- 11 日程

16:30	17:00	17:30	18:30	19:00	19:45	20:00
受付	Chapter-1 焚火をつくる	Chapter-2 焚火で食べる	Chapter-3 焚火で読む	Chapter-4 焚火で本を語る	クロージング	
	▼Chapter-1「焚火をつくる」	4~5人程度のグループ。火を起こして囲む	▼Chapter-2「焚火で食べる」	持参した食材を炙って食べる。シェアすることも	▼Chapter-3「焚火で読む」	ゆっくり読書の時間。除籍図書を紹介した交流も
	▼Chapter-4「焚火で本を語る」	おすすめ本を語り合う。絵本専門士の「焚火 de 大人絵本」	※時間は目安です。大きく前後することがあります。			

- 12 申込 8月18日(月)までにGoogleフォームより申し込み
 - ・定員に達した場合は、参加をお受けできないことがあります。
 - ・主催者が開設するSNSなどで、事業について発信する場合があります。
- 13 持ち物
 - ・本を1冊以上(紹介したい、焚火の前で読みたい、最近感銘を受けた など)
 - ・飲み物(酒類可) / 焚火であぶる食材(いずれも自分で消費できる量。串なども持参)
 - ・キャンプ用具(いす、テーブル、ヘッドライト、革手袋、食器等必要と思われるもの)
 - ・焚火の道具(焚火台、着火する道具など) ※持参できる方はご協力ください
- 14 その他
 - ・薪は主催者が用意します。
 - ・アウトドアの知識や技術は必要ありません。キャンプ用具を所有していない場合は、申し込み時にその旨記載してください。
 - ・市立図書館の除籍図書コーナーを設置します。その中から好きな1冊をお持ち帰りいただけます。
 - ・終了後、希望者はそのままつくも水郷公園キャンプ場に宿泊することができます。(無料・テント等持参)

しべつ大人の読書ツアーPREMIUM[®]

焚火×本

アウトドアと読書のコラボレーションで
新しい魅力を発見

8/30 (sat) 17-20
つくも水郷公園キャンプ場

講師：工藤 博文 氏 (森の遊人・店主)
岩林みずほ 氏 (絵本専門士)

Chapter-1 焚火をつくる
Chapter-2 焚火で食べる
Chapter-3 焚火で読む
Chapter-4 焚火で本を語る

参加費:500円

読書とアウトドアに興味がある20歳以上 10名
Formから申し込み。事業詳細は公式SNSを参照

申込Form Instagram Facebook

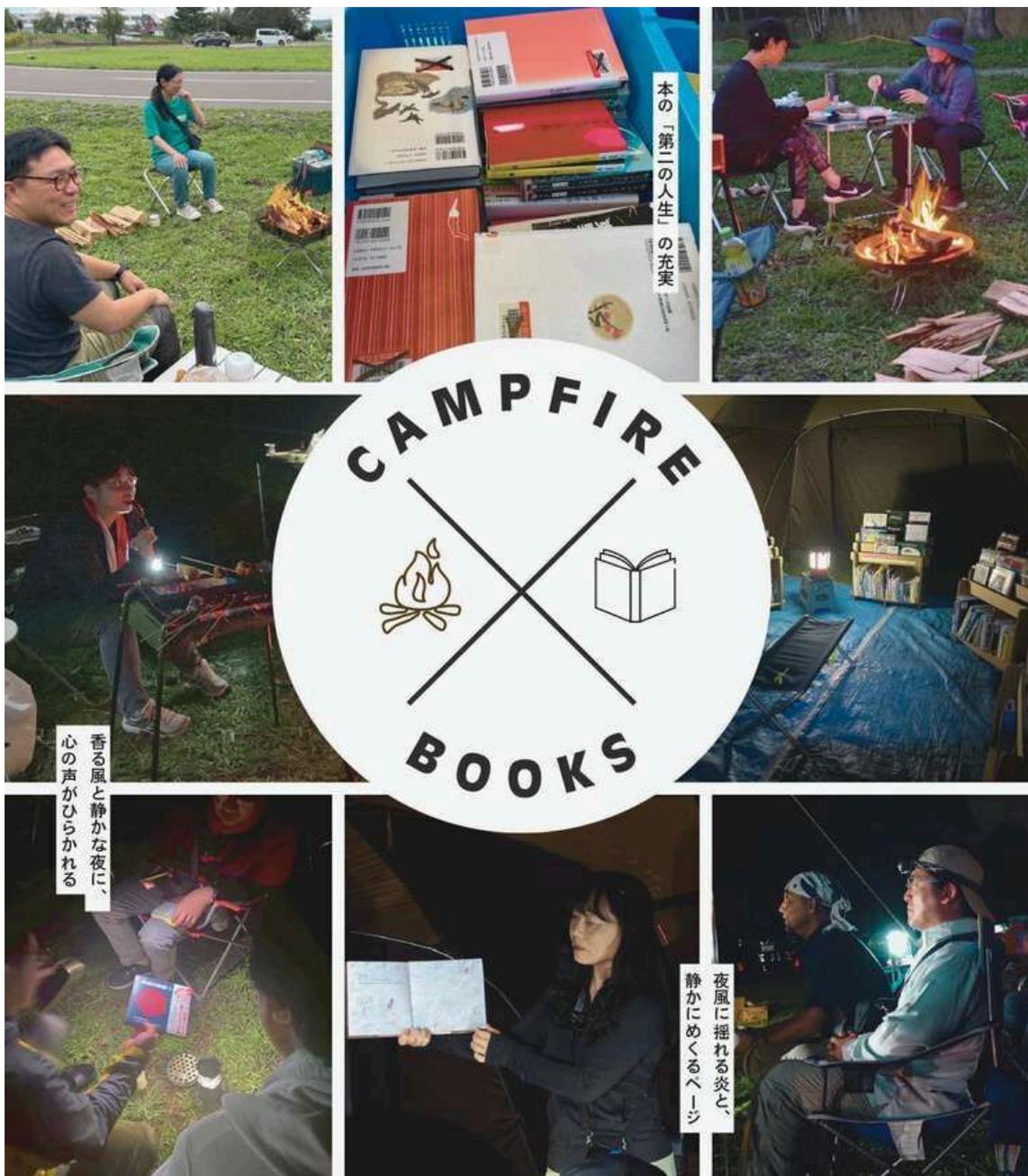


文部科学省「図書館・学校図書館と地域の連携協働による読書のまちづくり推進事業」

主催●株式会社遊喜 主管●しべつ読書でつなぐまちづくり協議会

後援●北海道教育庁上川教育局・士別市教育委員会 協力●市立士別図書館

担当●株式会社遊喜・石川 (TEL0165-26-7823 E-mail shibetsu.wakuwaku.dokusho2025@gmail.com)



「焚火×本」 しべつ大人の読書ツアーPREMIUM



2025.8.30 SAT

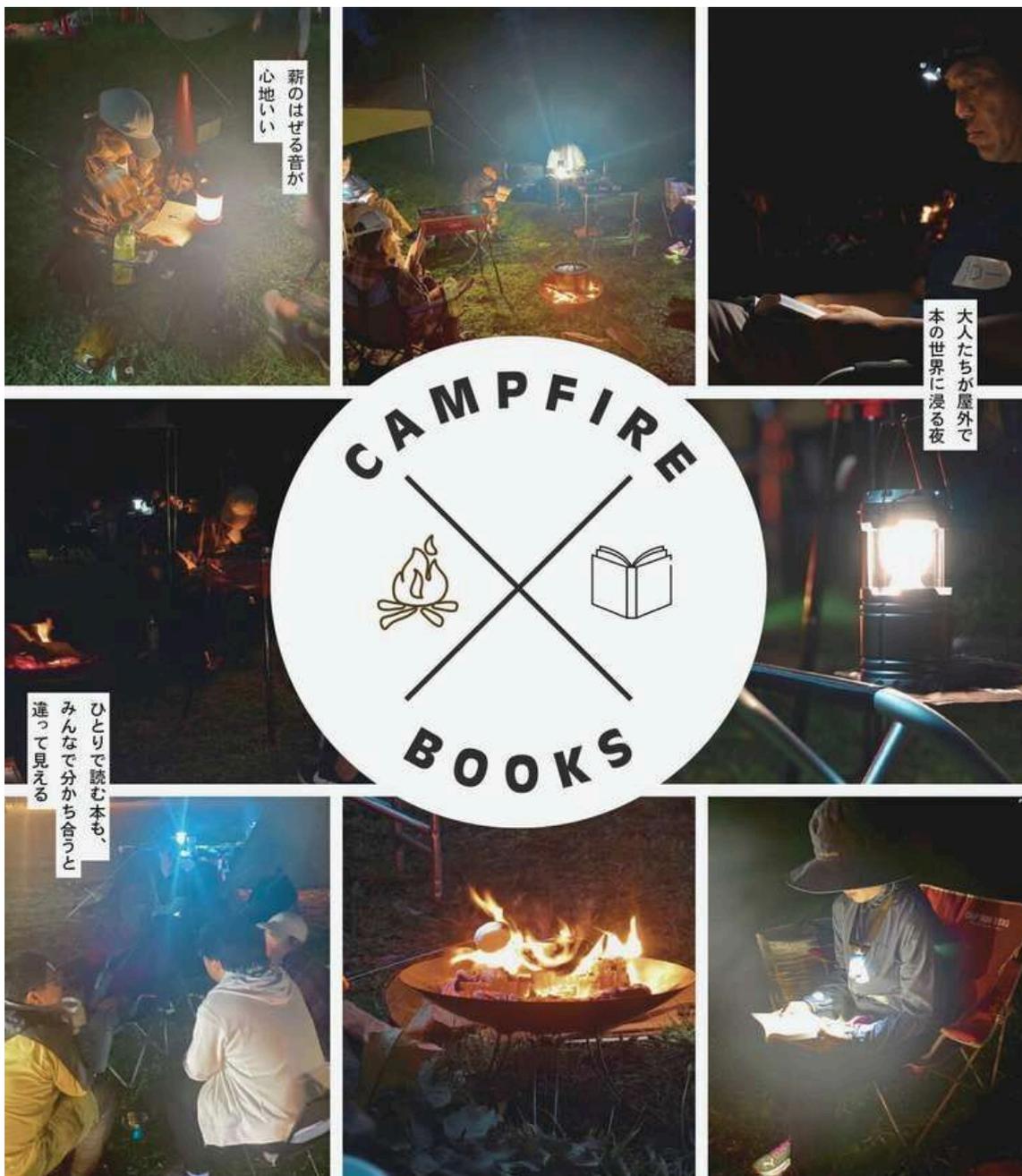


つくも水郷公園キャンプ場



しべつ読書でつなぐまちづくり協議会（株式会社遊喜）

市民が学び続けられる環境づくりをめざす



「焚火×本」 しべつ大人の読書ツアーPREMIUM



2025.8.30 SAT



つくも水郷公園キャンプ場



しべつ読書でつなぐまちづくり協議会 (株式会社遊喜)

市民が学び続けられる環境づくりをめざす

3. ブックRe:スタート

文部科学省「図書館・学校図書館と地域の連携協働による読書のまちづくり推進事業」
【ブックRe:スタート】ブックリサイクル探偵団

ねらい	市立図書館の除籍図書活用を通して、児童生徒の読書意欲の向上と士別市の新たな魅力の発見につなげる。
主催	株式会社「遊喜」/しべつ読書でつなぐまちづくり協議会
日時	令和7年12月上旬まで

1 概要

2 内容

- ①クイズを通して、児童生徒が市立士別図書館や除籍本についての理解を深める。
- ②市立士別図書館の除籍本を児童に届ける。
- ③本事業や除籍本を通して発見した本の魅力を市立士別図書館に展示する。

3 各校への配布物

- ・本要項
- ・取組説明プリント（職員用）
- ・取組周知のチラシ（掲示用）
- ・クイズのパネル（ラミネートされた問題・解答 各6枚）
 ※「市立士別図書館について」「士別市の読書推進について」がテーマ
- ・児童生徒記入用解答用紙
- ・市立士別図書館からのメッセージ
- ・除籍本（下記冊数参照）
- ・本の魅力発見カード（除籍本に挟んであります）
- ・除籍本をもらえなかった児童用絵葉書（「ふうきどう、様より寄贈」※小学校のみ）
- ・参加賞（イベント後に協議会からお渡しします）

4 除籍本について

士別市内全児童生徒数 小学校：543名 中学校：311名
 総冊数340冊（内訳 小学校：220冊 中学校：140冊 高校：40冊）
【小学校】計220冊

学校名	士別小	士別南小	糸魚小	上士別小	多寄小	温根別小
配布冊数	70冊	70冊	20冊	20冊	20冊	20冊
シークレットグッズ	10	10	5	5	5	5

【小学校以外】計120冊

学校名	士別中	士別南中	上士別中	朝日中	翔雲高	東高
配布冊数	30～40冊	30～40冊	20冊	20冊	30～40冊	30～40冊

【本取組説明～活動の流れ～】

◆各校に配布物到着（11月中旬）

ア、掲示用ちらし・ポスター



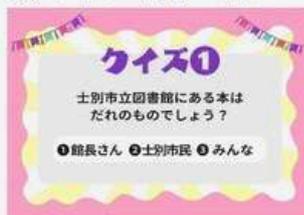
↓
事前に各校で掲示

イ、児童生徒用 解答プリント



→イベント開始時配布

ウ、クイズ・解答パネル



エ、除籍本+シークレットグッズ



◆イベント開始～終了まで（12月上旬まで）

- 1：児童生徒がクイズに回答
- 2：キーワード「ホンノトビラ」がわかったら担当職員に申告。
- 3：先着で除籍本を選んでもらう。
※除籍本には「魅力発見カード」が挟んである。任意で記入。
※シークレットグッズ引き換え券が入っていた場合、グッズと引き換え
- 4：除籍本がなくなったら、記念品（ポストカード）を配布。
- 5：クイズの解答用紙裏のアンケートに記入してもらい、回収。

※シークレットグッズと記念品は小学生のみ。

中学、高校生は後日参加賞を配布。

◆イベント終了後（12月中旬まで）

- 1：回収した解答用紙・魅力発見カードを事務局（土別南小／手塚）宛に配送。
- 2：集約後、解答用紙は参加賞と共に各校に返却
魅力発見カードは、市立土別図書館に展示。

文部科学省「図書館・学校図書館と地域の連携協働による読書のまちづくり推進事業」
ブック Re:スタート 思い出の本 開催要項

- 1 目的 多世代の市民が集うイベントや生涯学習の場に出向いて、学んだり楽しんだりして市立図書館の除籍図書の有効活用を図る。
- 2 内容
 - ① はたちを祝う会参加者を対象とし、幼少期に多く貸し出されていた絵本、児童書を展示する
 - ② 市立図書館の廃棄図書をはたちを祝う会に参加している希望者に贈呈する
- 3 主催 株式会社遊喜
- 4 主管 しべつ読書でつなぐまちづくり協議会
- 5 後援・協力 北海道教育庁上川教育局 士別市教育委員会・市立士別図書館
- 6 実施日 令和8年1月11日(日) 13:00~15:00
- 7 会場 はたちを祝う会会場 市民文化センター 研修室
- 8 対象 はたちを祝う会参加者とその保護者
- 9 タイムテーブル
 - 1/11(日) ※10:45 社会教育課管理職は会場入り
 - ※ 0:30~士別神社二十歳祭
 - 12:00 集合・準備
 - 13:00~15:30 図書展示・除籍図書の提供
 - 15:30 片付け

3. 読書環境醸成フォーラム

文部科学省「図書館・学校図書館と地域の連携協働による読書のまちづくり推進事業」
士別市読書環境醸成フォーラム～読書による「知のまちづくり」 開催要項

- 1 目的 読書推進の活動について有識者や先進地から学ぶことを通して、士別市における住民主体の読書環境醸成に向けた人材育成を図る。
- 2 主催 株式会社遊喜
- 3 主管 しべつ読書でつなぐまちづくり協議会
- 4 後援 北海道教育庁上川教育局・士別市教育委員会
- 5 協力 市立士別図書館
- 6 期日 令和8年2月8日(日) 13:00～16:15 ころ(受付12:30～)
- 7 会場 士別市生涯学習情報センター 地階 市民ギャラリー
- 8 対象 読書活動を推進するまたは興味のある市民等 30名程度
- 9 参加費 無料
- 10 日程・内容

12:30	13:00	13:10	13:40	14:25	14:30	15:15	15:20	16:10
受付	開会	①実践発表	②パネルディスカッション	休憩	③熟議	休憩	④講演	閉会
<p>①実践発表「住民主体の読書活動推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本協議会の実践 しべつ読書でつなぐまちづくり協議会 若林みずほ ・佐賀県伊万里市の実践 伊万里市民図書館読書推進係長 小柳 良子 氏 <p>②パネルディスカッション「これからの読書環境の在り方」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パネラー 伊万里市民図書館読書推進係長 小柳 良子 氏 市立士別図書館副長 藤田 昌宏 しべつ読書でつなぐまちづくり協議会・絵本専門士 若林みずほ ・コーディネーター (一社)北海道ブックシェアリング代表理事 荒井 宏明 <p>③熟議「市民の手による読書環境醸成を考える」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進行 北海道教育庁上川教育局社会教育指導班主査 田阪 直也 氏 <p>④講演「読書による『知のまちづくり』」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノンフィクション作家 柳田 邦男 氏 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>1936年栃木県生まれ、NHK記者から作家活動に。現代社会における「生と死」をテーマに、戦争、災害、事故、病気などの問題を現場重視の視点で掘り下げ、ドキュメンタリーな作品や評論を60年以上にわたり書き続けている。1972年『マッハの恐怖』で第3回大宅壮一ノンフィクション賞、1979年『ガン回廊の朝』で第1回講談社ノンフィクション賞、1995年『犠牲(サクリファイス)わが息子・脳死の11日』などで菊池寛賞、1997年『脳治療革命の朝』で文藝春秋読者賞、2013年『原発事故 私の最終報告書』で第74回文藝春秋読者賞を受賞。 近年は、絵本が子どもにも大人にも心の成長・成熟に深い影響を与えることに注目し、エッセイ『大人が絵本に涙する時』『みんな、絵本から』や、翻訳絵本『エリカ 奇跡のいのち』『ヤクバーとライオン』『だいじょうぶだよ、ソウさん』『くもをおいけてごらん、ピーパー』などの著書がある。</p> </div>								

- 11 申込 2月2日(月)までに申し込み
 - ・Google フォームまたは電話(市立士別図書館 0165-29-2153)
 - ※定員に達した場合は、参加をお受けできないことがあります。
- 12 その他
 - ・主催者が開設するSNSなどで、事業について発信する場合があります。
 - ・参加にかかる問合せ: shibetsu.wakuwaku.dokusho2025@gmail.com



申込フォーム

参加無料
FREE

士別市読書環境醸成フォーラム
読書による
「知のまちづくり」

2026.2.8[日] 13:00~16:15
(受付 12:30~)

[会場] 士別市生涯学習情報センター 地階 市民ギャラリー



- パネルディスカッション「これからの読書環境の在り方」
- 熟議「市民の手による読書環境熟成を考える」
- ノンフィクション作家 柳田 邦男氏による講演「読書による『知のまちづくり』」

[対象] 読書活動を推進するまたは興味のある市民等30名程度

[申し込み] 2026年2月2日(月)までに申し込み
Googleフォームまたは電話(市立士別図書館 0165-29-2153)



詳細はコチラ



[主催/主管] 株式会社遊喜/しべつ読書でつなぐまちづくり協議会

[後援] 北海道教育庁上川教育局/士別市教育委員会

文部科学省「図書館・学校図書館と地域の連携協働による読書のまちづくり推進事業」

士別市読書環境醸成フォーラム



2026.2.8(日) 士別市生涯学習情報センター

【主催/主管】

株式会社遊喜/しべつ読書でつなぐまちづくり協議会

【後援/協力】

北海道教育庁上川教育局・士別市教育委員会/市立士別図書館

12:30 13:00 13:10 13:40 14:25 14:30 15:15 15:20 16:10

受付	開会	①実践発表	②パネルディスカッション	休憩	③熟議	休憩	④講演	閉会
----	----	-------	--------------	----	-----	----	-----	----

■開会式

- ・主催者挨拶 株式会社遊喜代表取締役 (しべつ読書でつなぐまちづくり協議会) 喜多 武彦 様
- ・来賓挨拶 北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課課長補佐 長岡 広之 様

①実践発表「住民主体の読書活動推進」

- ・本協議会の実践 しべつ読書でつなぐまちづくり協議会 若林みずほ 様
- ・佐賀県伊万里市の実践 伊万里市民図書館読書推進係長 小柳 良子 様

②パネルディスカッション「これからの読書環境の在り方」

- ・パネラー 伊万里市民図書館読書推進係長 小柳 良子 様
- 市立士別図書館副長 藤田 昌宏 様
- しべつ読書でつなぐまちづくり協議会・絵本専門士 若林みずほ 様
- ・コーディネーター しべつ読書でつなぐまちづくり協議会 藤田 泰昭 様

③熟議「市民の手による読書環境醸成を考える」

- ・進行 北海道教育庁上川教育局社会教育指導班主査 田阪 直也 様

④講演「読書による『知のまちづくり』」

講師 ノンフィクション作家 柳田 邦男 様



1936年栃木県生まれ。NHK記者から作家活動に。「生と死」をテーマに、戦争、災害、事故、病気などの問題を現場重視の視点で掘り下げ、ドキュメンタリーな作品や評論を60年以上にわたり書き続けている。1972年『マッハの恐怖』で第3回大宅壮一ノンフィクション賞、1979年『ガン回廊の朝』で第1回講談社ノンフィクション賞、1995年『犠牲(サクリファイス)わが息子・脳死の11日』などで菊池寛賞、1997年『脳治療革命の朝』で文藝春秋読者賞、2013年『原発事故 私的最终報告書』で第74回文藝春秋読者賞を受賞。近年は、絵本が子どもにも大人にも心の成長・成熟に深い影響を与えることに注目し、エッセイ『大人が絵本に涙する時』『みんな、絵本から』や、翻訳絵本『エリカ 奇跡のいのち』『ヤクバとライオン』『だいたいぶだよ、ソウさん』『くもをおいけてごらん、ピープー』などの著書がある。

■閉会式

- ・講評 北海道教育庁上川教育局長 今村 隆之 様

北海道ブックシェアリングの大規模火災被害への支援について

「誰もが豊かな読書環境を享受できる北海道をつくろう」をスローガンに、読書環境の整備支援に取り組んでいる「一般社団法人北海道ブックシェアリング」。これまで道内を中心に、読み終えた本の無償提供や学校図書館への支援など、さまざまな取組を積み重ねてこられました。代表の荒井宏明さんは、北海道教育委員会の読書に関わる各種委員を務められたほか、本協議会の委員としても、各事業に対し継続的な指導・助言をいただいています。

ご承知のとおり、1月7日に発生した江別市大麻銀座商店街の大規模火災により、同法人の事務所は一瞬のうちに焼失してしまいました。荒井さんをはじめ、関係者の皆様のご心痛はいかばかりかと、思いを致さずにはられません。

この場をお借りして、心よりお見舞い申し上げますとともに、皆様におかれましては、北海道ブックシェアリングへの温かいお力添えを賜りますようお願い申し上げます。同法人の一日も早い再起と、北海道の読書環境が今後さらに充実していくことを、心から願っております。

令和8年2月8日

しべつ読書でつなぐまちづくり協議会一同



■読み終えた本の無償提供

個人や企業、団体などから読み終えた本を寄贈いただき、クリーニングや仕分けをします。公民館、高齢者福祉施設、学童など、必要な施設や団体に無償提供しています。



■チャリティ古書バザー

寄贈いただいた本の中で、無償提供先が見つからない本を古書バザーで販売します。チャリティ価格で販売し、より多くの方に読書の機会を創出します。



ブックシェアリング HP



【義援金・支援金の振込先】

郵便局：郵便振替口座 02730-6-97461 口座名義 北海道ブックシェアリング

銀行：北海道銀行新さっぽろ支店 1341792 口座名義 北海道ブックシェアリング

北洋銀行野幌中央支店 4387870

口座名義 一般社団法人北海道ブックシェアリング代表理事 荒井宏明

クレジット：<https://syncable.biz/associate/booksharing2019/donate>

【アンケートのお願い】

本日はお忙しい中、本フォーラムにご参加いただきましてありがとうございました。本協議会としましては、これからも士別市はもとより、近隣市町村とも連携しながら、住民主体の読書環境醸成に取り組んでまいります。

つきましては、今後の参考にいたく、アンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。

※右 QR コードから、2月13日(金)までに入力ください。



